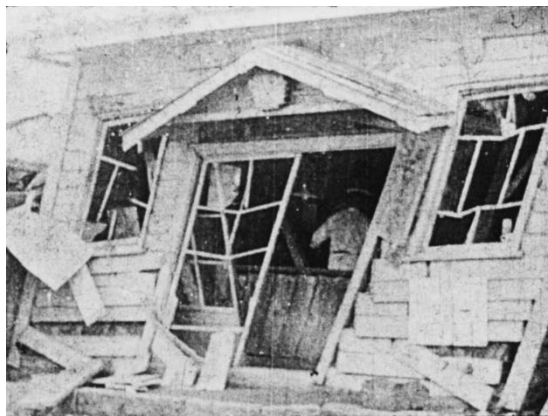


静岡県 の被災状況も克明に記録

「関東大震災映像デジタルアーカイブ」第5弾作品

『東京関東地方 大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日』公開のお知らせ



左：『東京関東地方 大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日』1923年 被災した伊東・大川橋

右：『東京関東地方 大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日』1923年 田方郡大場（現・三島市大場）の惨状

このたび、WEB サイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」（制作：国立映画アーカイブ、国立情報学研究所）に、第5弾作品『東京関東地方 大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日』を公開する運びとなりました。本作にはかつて兵庫県に存在した新聞社のクレジットがあり、元素材のフィルムも現地で発見されています。これまで本サイトでは東京・横浜の被災状況を記録した映画を配信してきましたが、本作前半の「第一報」のパートでは静岡県の各地で撮影が行われており、現在の沼津市、三島市、小山町、伊東市などの震災後の状況を見ることができます。

『東京関東地方 大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日』（26分 | 1923年 | サイレント | 白黒）

【作品概要】兵庫県篠山町（現・丹波篠山市）の郷土新聞であった兵阪新聞社のクレジットがある作品。全篇は「第一報」「第二報」「第四報」に分かれ、「第一報」で紹介される静岡県内の被災状況は、現存する映像ではこのフッターでしか見ることができない。

公開日時：3月31日（木）16時

「[関東大震災映像デジタルアーカイブ](https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/)」とは（<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>）

★1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災について、当館が所蔵する関連の映画フィルムなどの資料を公開するWEBサイト。

★「撮影場所」、「シーン（写されている事象）」で分類された「クリップ」単位での検索・閲覧が可能で、作品のディテールをより深く、横断的に見るできるようになっています。

★関東大震災発生から100年にあたる2023年9月1日までに、当館で所蔵する関東大震災関連の全ての映画フィルムの公開を目指しています。

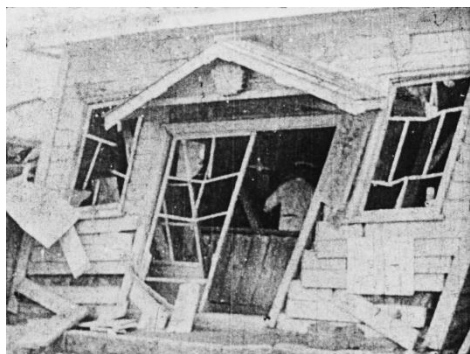
★今回より、『[「関東大震災映像×専門知」によるコラムのページ](#)』と題し、分野の異なる専門家が関東大震災映像を読み解くコラムの掲載をスタートいたします。本ページも随時更新してまいります。

つきましては、ぜひとも本サイトのご紹介をご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823/FAX：03-3561-0830/E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp

『東京関東地方 大震災惨害実況 大正十二年九月一日二日三日』クリップ一覧



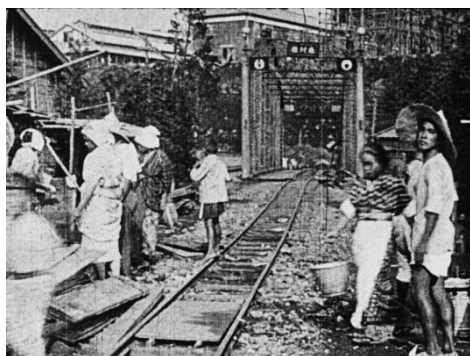
場所：静岡県／シーン：倒潰・損壊
田方郡大場（だいば）の中心街を襲った地震被害の様子と、対処に追われる人々の姿を描く。



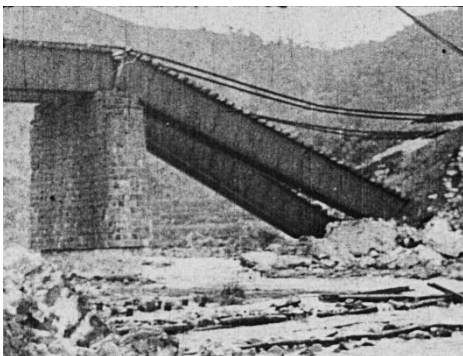
場所：静岡県／シーン：倒潰・損壊、避難生活の場
三嶋大社境内に避難する人々と、石燈籠の落石。



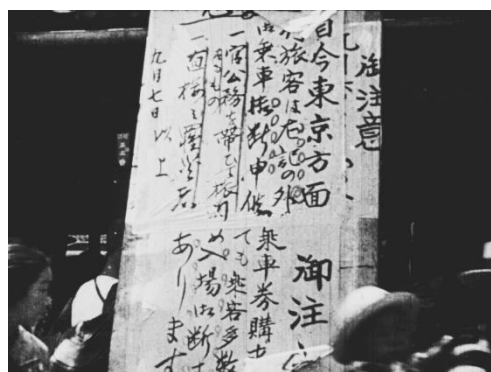
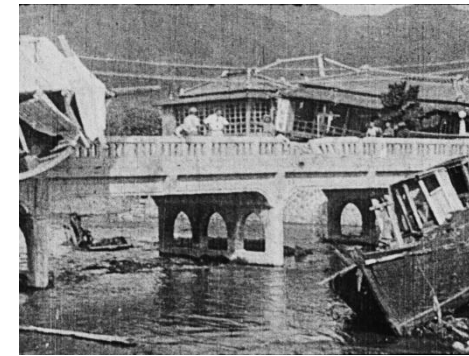
場所：静岡県／シーン：避難生活の場
東海道本線駿河駅（現・御殿場線駿河小山駅）で避難所になったという蒸気機関車。



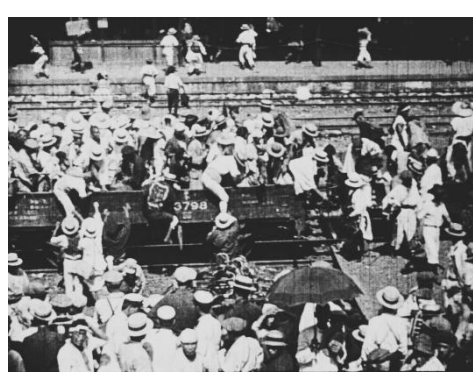
場所：静岡県／シーン：避難生活の場
富士紡績の発展に貢献した森村市左衛門を記念し、1906年に開橋した森村橋は、東海道本線（当時）と同社小山工場とを結ぶトロッコ軌道が鮎沢川に架かる橋。



場所：静岡県／シーン：倒潰・損壊
地震によって落橋した、東海道本線（現・伊東大川に架かる鉄筋コンクリート造の大御殿場線）駿河駅と足柄駅の間、相沢川橋は、震災3ヶ月弱前の1923年6月10日に渡り初めが行われたばかりだったが、地震により損傷した。



場所：北／シーン：避難
東京方面への乗車が制限され、人がごった返している赤羽駅前。



場所：北／シーン：避難, 救助・救護・救援
田端駅の跨線橋には避難する人々が列をなし、駅構内は貨物列車から降りる人たちであふれかえっている。

【本件に関するお問い合わせ】
国立映画アーカイブ「関東大震災映像デジタルアーカイブ」広報担当
電話：03-3561-0823 / FAX：03-3561-0830 / E-mail：kanto1923@nfaj.go.jp